



■大隅地区「学力向上」研究指定校研究公開がありました！

6月19日(水)に、野方小学校で標記の会が開催されました。

同校は、平成29年度から3年間にわたり「確かな読みの力を育む学習指導法の工夫～説明的文章における系統的・段階的な指導を通して～」を研究主題に、研究と授業実践に取り組んできました。

この日は、100名を超える参加者の下、全体会や研究授業では、これまでの成果が発表され、分科会では、学力向上のための指導の在り方について、活発な意見交換が行われました。



【研究授業の様子】



【全体会の様子】

まぶの窓おしえの庭

『「互助」できる関係づくりを地域から』

No.56 大崎中学校 学校運営協議会会長 福留 利郎

今春六回目の入学式を迎えた大崎中学校は、少子化により生徒数が減少しつつあります。我々大崎町民は、地域の宝が年々減っているこの事実を直視すべきだと思います。

このような中、大崎中学校では、子どもたちを地域全体で育む取組、コミュニティ・スクール(学校運営協議会、以下CS)がスタートしています。

先進地域を訪問すると、どのCSでも「学校づくりを通して地域づくりを行う」と話されます。「大崎の地域はつくり上げられている」と感じていた私にとって、この言葉は不思議に思われました。ところが、その後、子ども目線で我が町を見渡せば、「地域が繋がらなくても生きていける社会」へと変わっていることに気付かされました。物が豊かな現代には、お互いを見つめ、向き合って助け合う「互助」は、一見、必要ないように思えるからです。

確かに、現在社会は、昔と比べ大きく変化しています。核家族化や共働きが進み、子どもだけで夕方を過ごす家庭が増えました。地域の見守り活動をしようとする方がいても、子どもは「知らない人に声をかけられたら逃げなさい」と指導されてしまいます。だからこそ、私達には今、お互いの顔が見え、「互助」ができる関係づくりが求められているのです。その願いから、大崎中学校ではCSの取組を続けています。これにより生徒達は、地域住民と関わる機会が増えました。そして、地域で果たすべき役割は何かを考え、動くようになりました。

今度は大人たちが、もっと学校に出向き、先生方と一緒に子どもたちを育てる番です。「互助」ができる地域を目指し、無限の可能性をもつ大崎の子どもたちを地域全体で共に見守り育もうではありませんか。

【お詫びと訂正】

広報おおさき7月号の『ぼくの夢、わたしの夢』で掲載した児童の名前のふりがなを間違えて掲載いたしました。お詫びして訂正させていただきます。正しくは、大野 心音(おのの ことね)さんでした。大変失礼いたしました。